

群 馬 県 立 藤 岡 中 央 高 等 学 校			学 校 評 価 一 覧 表			(令和6年度版)			(別紙様式)			
羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題			学校関係者評価		
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等							
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育課程を編成していますか。	① 実験や実習を中心に主体的に取り組める科目、進路に応じた選択科目を多く設定している本校の教育課程に満足している生徒の割合が75%以上である。	・生徒の進路希望の実態を把握・検証し、生徒の実態に即した教育課程を編成する。	A	B	A	本校の実態ならびに新学習指導要領の内容を踏まえ、新教育課程について引き続き検討を行う。基礎基本の習得から、応用力を培うまでの授業ができる教育課程の編成を行う。			・生徒の実態に即して、基礎基本の反復を行い、習熟度に対応しながら難易度を上げていく方法は、有効であると感じる。 ・主体性を引き出し、様々な活動を通して自信をつけさせていく努力を藤岡中央高校はやっている。		
	2 特色ある取組を行っていますか。	① 習熟度別の履修形態に満足している生徒の割合が75%以上である。	・反復学習による基礎学力の定着を第一義とするが、習熟度の高いクラスについては授業内容の難易度をあげるなど、生徒の実態に即した授業を展開する。	A	B	A	意欲喚起につながる授業を実践するため、研究授業と授業研究会を定期的に開催して教員の授業力の向上を図る。研究授業・授業研究を行うとともに、さらに教員研修等を通して教員の授業力向上を図る。			・教員の授業研修により、授業指導のスキルアップを図り、学校の中核は生徒の学力と人間力の向上であることを学校の特色として追求してほしい。 ・藤岡中央高校のセールスポイントである「探究的学習」の充実発展のためには、日々の学習指導において学び方を身につけさせ、学習意欲を高めていく必要がある。今後、より一層の教師の指導力向上に努めてほしい。		
		② 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合が70%以上である。	・教育課程の特色を活かして様々な学習活動を行い、生徒の学習意欲や自己有用感を高め、職業観の醸成を図る。	B	B	B	アクティブラーニングを効果的に取り入れた授業を実践するとともに、探究的に取り組む学習活動を積極的に実践する。また、授業だけではなく、生徒が主体的に取り組むよう、文化祭等の行事や部活動等の教育活動全体を通して生徒に働きかける。教育活動全般を通して、生徒の良さを引き出して自信をつけさせる教育活動を推進する。					
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	① 年2回実施する授業アンケートの結果、授業が改善されたとする生徒の割合が60%以上である。	・記述式のアンケートを授業にフィードバックし、常に授業改善に取り組む。	A	A	A	各科目・各教員に対して生徒の意見が反映されるような授業アンケートをとり、職員に迅速にフィードバックする。また、教科を越えた職員相互の授業見学を行うとともに、職員研修を通して授業改善につなげる。授業アンケートや模試の結果等を羅針盤にしなが、さらに授業力が高まるよう研鑽を重ねる。			・生徒の実態に応じた指導に関する評価が高く、藤岡中央高校のセールスポイントである。 ・わかりやすい授業の展開は、必ず進路目標の達成と学力アップに結びつくはず。それがやや揺らいでいるのが課題。 ・全教科を通して、「何のために学ぶのか」という根本の学習スタンスをわかりやすく明確に伝えれば、より高い評価に結びつく。生徒と話をしたが、その根本のところが見えてきていない。		
	4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	② 授業がわかりやすいと評価している生徒の割合が、全ての教科で70%以上である。	・生徒に予習や復習を求めるだけでなく、教員が教授法について学び、授業においても生徒の主体的な活動を充実させる。	A	A	A	個に応じた組織的な指導の充実を図り、生徒がわかる楽しさを味わえる授業を推進し、進路実現に資するよう全校的取り組みを実践する。分かりやすく、学力が高まるよう、教師－生徒間のコミュニケーションはもちろん、教師間、教科内、教科間のコミュニケーションも高めていく。			・具体的数値項目についての達成状況が一覧表だけでは不明である。達成度C以下に関しては、来年度に向けた具体的な取り組みを記載した方が良いと感じた。 ・アンケートについては、記入は容易で簡単だが、どう分析をするのか。こうしたフォーマットに記述した意見をどう各項目全体で結びつけて、新たな未来を示唆するののか。その姿勢が藤岡中央高校として問われているといえようか。		
		① 進学課外の内容に満足している参加生徒の割合が85%以上である。	・教科ごとに課外内容を検討し、3年間を見通した計画的な進学課外を実施する。	A	C	B	生徒の実態に合わせて課外内容を工夫する。内容とともに生徒が達成感を感じられるよう指導の工夫をする。部活動の時間も配慮し、課外に参加しやすい状況を確認する。生徒の進路希望に合わせた柔軟な対応を行い、課外への参加の意義を感じられるよう工夫する。					
		② 授業への取り組みが進路実現に関わりがあると考えている生徒の割合が80%以上である。	・各教科で知識・技能・態度など職業生活との関わりを意識した授業を実践する。	C	B	B	教務部とも連携し、教科横断的な指導や授業実践における探究の視点を取り入れていく。学習が将来の仕事にどのように結びついていくかを考えさせるキャリア教育を実践する。社会や職業とのつながりを意識して教材を工夫することで、生徒の知的好奇心を喚起し、将来についてイメージできるようにする。					
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	① 日頃の清掃活動や環境美化に積極的に取り組む生徒の割合が70%以上である。	・環境教育を実践している教科と連携を持ち、校舎周辺の美化に努める。 ・各生徒が校内の美化に努める。	D	B	C	学年を超えた環境委員の活動に力を入れ、今後も清掃活動・ボランティア活動を活性化させる。年一回のモップ交換や「学校をきれいにし隊」等の委員会活動を通じて、生徒の自主性を引き出すことに重点をおき、自ら動ける生徒を育てていく。			・校内における生徒主体の活動が充実していると感じる。 ・生徒の自治的な活動が行えていてとてもよいと思う。これからも生徒一人一人が充実感や達成感を味わえる生徒会活動を続けていってほしい。		
	6 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	① いじめの防止や早期発見に関する学校の取組に理解を示している生徒が80%以上である。	・各学期1回および問題発生時に臨時的アンケートを実施し、いじめの把握と対応を早期から厳格に行う。 ・職員会議を利用し、短時間研修を実施し、教職員の知見を深める。	A	C	B	いじめ問題に限らず、問題行動はSNSに起因する事案が多かった。今後は情報モラル教育の指導内容を見直し、改善に向けて検討を重ねていく。いじめ問題に係る取組は、入学者説明会、入学式、始業式、終業式、学年別懇談会、生徒指導日より、PTA会報、オクレンジャーなどを通じ、生徒や保護者へ学校がいじめ問題に対して取り組んでいる内容と方法を発信し、その回数も増やしていく。			・いじめ問題に関して、学校は様々な方法で取り組んでいても、保護者等の評価は上がりにくい問題である。 ・学校の取組の一つとして「生活アンケート」を学期毎に行っているが、これを毎月実施するようにしてはどうか。小中学校では毎月実施しているので、高校生になると悩み等を伝える機会が少なくなると感じる生徒や保護者がいるのではないかと。 ・保護者のいじめ問題に対する関心はとても高い。いじめを認知する機会を増やす取組も有効なのではないかと。 ・環境活動やボランティア活動は、生活の最も土台となる「日常」の倫理観、地域への互いに扶助する意識に大きな影響を与える。その評価が低いことが気にかかる。意識を高める取り組みと現場での繰り返しの指導が必要。 ・学校が用意した委員会ではなく、きれいな環境が学ぶ心をより高めてくれるという実感をどう持たせられるかが大切。 ・自転車の事故等への意識が低い。自分たちが地域の中で守り守られていることをより深く考えさせることで、よそごとのように捉えている意識を、自分ごととして捉えることに転換させたい。		
	7 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	① 各月の遅刻率が2%以下である。	・担任が生徒へ働きかけるとともに、遅刻生徒の保護者と連絡を取り協力を得る。 ・生徒指導部職員が登校時指導を行い、基本的生活習慣に係る啓発のための声掛けを積極的に行う。	B		B	生活習慣の乱れと時間を守ることの重要性を生徒自身に理解させるとともに、保護者への協力依頼を粘り強く行っていく。また、交通事故の未然防止の観点からも、5分前登校から10分前登校を推進し、基本的生活習慣の確立に向けた取組強化を図っていく。			・生徒会や部活動に関する評価は高いので、清掃やボランティア、交通マナーなどの問題を、部活動や生徒会活動からのアプローチで改善していくことも有効ではないかと。 ・規則正しい学校生活は、難しいことではあるが、基本的なことなので、対策を進めてほしい。 ・自転車に係ることは、特に生命に関わることなので対策を進めてほしい。		
		② 生徒の自転車登下校時における交通事故が10件未満である。	・交通安全教室や自転車点検の充実を図り、生徒の交通安全に対する意識を高める。	C		C	交通事故を他人事として捉えている生徒が多い。その意識の現れがヘルメット着用率の低さである。ヘルメット着用の指導に絡めて、身近に起こっている大きな事故の事例などを伝え、他人事から自分事に感じ取れるような取組と指導内容を検討する。保健の授業でも交通安全を重点指導項目として指導することが望まれる。			・安全面では自身の身を守るべき絶対要件である自覚が必要と考えます。いじめ問題についても、双方の受け取り方で全く違う事なので、全校で意見交換が良いと思います。生活習慣の乱れについても同様に先生からの意見だけでなく、生徒自身どう学校生活を送り、過ごす事が理想なのかを日常的に話題にする事で、生徒自身どう立ち振る舞い、考え学んで行けるかが見えてくる。		
		③ 悩み事などの教育相談の体制を熟知している生徒の割合が80%以上である。	・スクールカウンセラーと協力し、生徒が相談しやすいと感じられる教育相談体制の充実を図る。	B	B	B	SCを利用する生徒は減少傾向であるが、継続して利用する生徒が多く、SCと生徒の信頼関係が構築できていると考えられる。悩み事を相談することが、「人に弱みを見せたくない」「相手を悩ませてしまうのでは」「悩みを否定されるのが怖い」「どう話したらいいかわからない」「そもそも他人に伝えることではない」などの心理傾向を持つ生徒が潜在していることを忘れてはならない。今後はSCのみならず、民間の相談機関も気軽に相談できる雰囲気作りを醸成していく。					
8 生徒会活動・部活動の充実・発展に努めていますか。	① 生徒会活動が充実していると評価した生徒の割合が75%以上である。	・生徒が学校生活に対する意見・要望を提案する機会を設ける。 ・各行事に積極的に参加させ、学校生活を充実したものにする。	A	A	A	体育祭・球技大会などの学校行事を行うことができた。開催にあたり立案から運営を生徒会がリーダーシップをとって開催できたことが意義深かった。生徒は達成感・充実感を味わえたことに加え、まあい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てることに繋がった。						
	② 部活動が充実していると感じている部員の割合が70%以上である。	・各顧問が積極的に部活動に関わり、計画的・組織的に部活動を推進する。 ・安心、安全に活動できる環境を整備するため、部顧問会議を行って十分な情報共有を図り、各部の運営に活かすよう努める。	B	A	A	職員会議の後に行っている部顧問会議において、安全管理計画・安全指導計画の確認や見直しに加え、「部活動離れ」「部活動の地域移行」についても検討の場を設けて対応策を考える必要性を感じている。						
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	9 計画的な指導を行っていますか。	① 「進路通信」など学校からの進路情報が役立っているという評価する保護者の割合が70%以上である。	・「進路通信」を活用して家庭内での相談に生かせるようにする。 ・保護者の進路指導に対する要望を指導計画に反映させる。	A	B	A	「進路通信」・「進路の手引き」に、先輩の体験談や資料等、生徒にとってより身近な話題を充実させる。進路の手引きをHR活動や三者面談等、実際の指導場面で活用していく。進学希望の生徒には、大学入試の激しい環境変化をリアルタイムで伝えられるよう工夫する。就職希望の生徒に対しても適切な情報提供を行う。			・民間就職や公務員試験、大学や上級学校への進学も少子化が進み、広き門となっているが、藤岡中央高校の進学実績は、やや停滞して見える。 ・2者面談や3者面談を形式的な場当たりの面談で終わらせず、3年間を通してどのような内容でどの時期に実施し、どのような言葉かけをし、進路指導をすべきなのか。積み上げられてくるべき進路選択が必要。 ・キャリア教育等の課題については、中学生や大学生などと意見交換することも有効かと思う。		
	10 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	② 進路行事や総合的な探究の時間、LHR等で実施している進路学習が、進路決定や進路実現に役立つと評価する生徒の割合が75%以上である。	・学年の段階に応じた進路学習を計画する。 ・キャリアパスポート等での振り返りを通し、様々な経験と関連づけて自分の興味関心や成長を説明できるようにする。	A	B	A	地域と連携した「総合的な探究の時間」のカリキュラムを引き続き充実させる。進路希望に合わせた上級学校見学や職場見学、インターンシップなどを実施し、進路意識を向上させる。より実践的な活動を展開することで、自主的に探究に取り組ませ、目的意識の醸成につなげる。			・進路実現と授業の関わりについて、次年度の課題として記載していただいているとおり、知的好奇心を刺激するような授業の構築を望みます。ゆくゆくは学習すること自体の重要性についても踏み込んでいけるとベストかと考えます。		
		① 進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒の割合が70%以上である。	・自己理解と職業や上級学校についての知識を深めさせ、進路実現への道筋を示す。 ・二者面談を通じて進路意識の向上と進路方針の明確化を図る。	A	A	A	それぞれの生徒が目的意識を持って、就職・進学することができるように、適切な情報提供を通じて意識の向上を図る。土曜課外や難関大学セミナー等を実施し、生徒の進路に対する意識を向上させる。土曜課外や模試の受験等、進路実現に向けた着実な取り組みを実施し、進路意識を高める。					
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	11 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	① PTAの様々な連絡について、80%以上の保護者に確実な周知をはかる。	・オクレンジャー(一斉配信システム)等を活用し、必要な情報を素早く確実に保護者に配信する。	A	A	A	オクレンジャーは、保護者連絡時における有効な通信手段として、引き続き適切に活用していく。			・進路選択や開かれた学校づくりの評価が高いことは、学校の魅力に直結することなのでとてもよい。 ・開かれた学校づくりによく努めていると思う。ただ、草創期のような詳細な藤岡中央の活動状況が見えてこない。保護者の啓発と地域へのアピール、未来の藤岡中央高校の生徒となりうる、幼稚園、小学校、中学校への活動発信はなされているのか。PTA活動も義務教育のPTAとの連携も考えられる。		
	12 ICTを活用した指導を行っていますか。	② PTA行事(総会、学年・学級懇談会、専門委員会の活動)に参加している保護者が70%以上である。	・PTA行事(総会、学年・学級懇談会、専門委員会の活動)の内容の充実、ICT活用による簡素化を図り、保護者が参加しやすい環境を整える。	A	B	A	地域の方々や中学校の生徒・職員を対象にした「ひびき」を、オクレンジャーで保護者にも送り、生徒や学校の動向がわかりやすく伝わるよう努める。生徒から保護者への行事・活動の連絡をどのように徹底するか、PTA活動の意義をどのように保護者に理解していただくかについて、引き続き検討を進めたい。					
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	13 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	① ICTを活用した授業に満足している生徒の割合が75%以上である。	・各教科担当が端末を積極的に活用し、より分かりやすい授業の展開を図る。 ・職員間で端末の活用に関して情報共有を図り、ICTを活用したさらなる授業改善に努める。	A	A	A	端末の効果的な活用法について、職員間での情報共有や校内研修を継続的に実施する。各教科内で行う探究的な学習や、STEAM教育と関連したICTの活用を促進し、授業改善につなげていきたい。			・ICTの活用は、授業の効率化にもつながり、学力の向上も図れるので、今後も積極的な活用を進めてほしい。デジタル化の進化への対応や課題に適切に対応するための危機管理も重要。 ・生徒のICT活動は日常の学習によく機能している。タブレットを見てわかったかのような錯覚をし、学力や思考力がついていない高校生も多い。ICTの活用と同時に、紙媒体(書物や新聞等)を併用し、深く読み、考え、まとめ記述し、それを再び振り返り、推敲する力もつけさせていく必要がある。		
		② ICTを活用したアンケートに生徒・保護者の60%以上が満足している。	・グーグルフォームやオクレンジャーのアンケートフォームを活用し、分かりやすく回答が容易なアンケートの作成を行う。		A	A	アンケート実施者・回答者ともにICTを活用したアンケートに習熟してきてはいるが、まだ十分に活用されていない業務もある。業務の精選もしつつ、ICTを活用した業務改善をすすめていきたい。					